

Topics ■トピックス [学内情報]

◎関西大学なにわ大阪研究センターを新設

魅力あふれる大阪の文化を研究する新拠点



RESEARCH CENTER FOR NANIWA-OSAKA STUDIES

関西大学は、大阪にある多様な文化を総合的に研究する新拠点として「関西大学なにわ大阪研究センター」を開設し、4月3日、千里山キャンパスにて開所式を行った。



▲関西大学が複製した「豊臣期大坂図屏風」と「浪花名所図屏風」のレプリカ展示

関西大学は、2005年度から10年間、文部科学省の補助事業として、なにわ大阪の歴史、文化および景観等に関する研究と地域との連携を行ってきた。本センターの設立は、大阪に生まれはぐくまれてきた大学としての社会的使命と期待に応えるため、これまでの研究成果を引き継ぎ、地域貢献を続けること、次世代につなぐことが目的。今後は、地域文化資源の発掘・デジタル化および地域活性化資源化、住吉・堺の歴史景観の復元、なにわ大阪の「笑い」に関する調査と研究等を進めていく。

5月15日まで開設記念展も開催され、なにわ大阪の文化を愛する多くの人々が来場し、「芝居町道頓堀—中村儀右衛門と山田伸吉」展や「豊臣期大坂図屏風」「浪花名所図屏風」のレプリカ展示、「なにわ大阪研究10年のあゆみ」を紹介するパネル展示などを熱心に見学した。

◎「グローバル企業体感プログラムinベトナム」の成果

コクヨと関大生の共同開発商品「日本語練習ノート」が完成!



渡辺智也さん(左)と鳴海彩乃さん



「日本語練習ノート」を考案した関大生と現地の大学生

コクヨ株式会社のベストセラー商品「キャンパスノート」に、キャリアセンターが主催する「グローバル企業体感プログラムinベトナム」に参加した関大生によるアイデアが採用され、関西大学とコクヨベトナムトレーディング株式会社の共同開発商品「日本語練習ノート」として、5月10日、ベトナム国内にて販売が開始された。

2014年度から始まった「グローバル企業体感プログラムinベトナム」は、海外で活躍する日系企業の視察、現地のビジネスパーソンや学生との交流、課題解決型学習などで構成された9日間のプログラム。2015年度夏期は15人の学生が参加し、ホーチミン

工科大学や現地日本語学校の学生約500人に、英語、ベトナム語、日本語の3カ国語を駆使してアンケートやリサーチを実施。「漢字が書けない」という声を反映して、小出裕一郎さん(法4)、鳴海彩乃さん(経4)、渡辺智也さん(社4)のチームが「漢字を何度も練習し、書いて覚えられるノート」を考案した。彼らのアイデアは「キャンパスノート」に採用され、日本語学習者が急増しているベトナムでの発売が決定。日本の地方自治体ともタイアップし、表紙と裏表紙には各地が誇る四季の風景写真が使用されている。ノートを通じ、多くのベトナム人学生が日本や本学に興味を持ち、訪日増加につながることを期待される。

◎関西大学創立130周年記念事業 イノベーション創生センター開設記念シンポジウムを開催

学是「学の実化」を实践する先端的な産学官連携拠点として



関西大学イノベーション創生センター(完成イメージ図)

関西大学は、産学官連携活動の新拠点として「イノベーション創生センター」を開設し、4月9日、千里山キャンパスにおいて、開設記念シンポジウムを開催した。

本センターは、創立130周年記念事業の大きな柱の一つとして設置され、産学官連携活動の飛躍的な活性化とベンチャー支援・人材育成の拠点としての機能を担う。また、総合大学の利点を生かし、理工学系の先端研究に加え、マーケティング・リサーチ等々の人文・社会科学系の分野を配置することで、人文・社会・自然科学系の「融合」及び、教員・学生・企業・研究機関等との「協働」による本格的なイノベーションの創出を実現する。9月竣工予定



▲活発な意見が交換されたパネルディスカッションの様子

の建物は、地上4階地下1階からなり、1階はカフェスペース。2階は起業支援を行うベンチャーオフィス。地下1階、地上3・4階は共同研究や企業間連携を行う実験・研究エリアになる予定。

シンポジウム当日は、大阪大学大学院工学研究科の浅田稔教授が「ロボットイノベーションによるココロの創生」をテーマに、人工知能の可能性などについて言及したほか、文部科学省科学技術・学術制作局 産業連携・地域支援課長の坂本修一氏、元Google米国本社副社長兼同日本法人代表取締役・株式会社社村上憲郎事務所代表取締役の村上憲郎氏と、産学官の各分野から3人が講演。パネルディスカッションでは、政策創造学部の白石真澄教授がモデレーターとなり、講演者に石川正司初代センター長が加わり、イノベーションやグローバルイノベーションをテーマに活発な意見交換が行われた。

◎年史資料展示室 企画展

「関西大学の創立者たち」を開催

平成28年度年史編纂室企画展「関西大学の創立者たち」が、4月1日から2017年3月25日まで、千里山キャンパス簡文館・年史資料展示室において開催されている。

関西大学は、1886(明治19)年11月4日に大阪西区京町堀の願宗寺で西日本唯一の法律学校である関西法律学校として創立され、今年130周年の佳節を迎える。創立から3年後の1889(明治22)年に第1回の卒業式を迎えた学生はわずか17人。現在では、大学、大学院、併設校を合わせると3万人を超える学生・生徒を擁し、毎年6千人以上の卒業生を送り出す一大学園に発展した。

会場では、関西大学の前身である関西法律学校の設立に携わった創立者12人の事績や、当時の学生が語り伝えた創立者たちの逸話などについて、パネルや写真で紹介。ゆかりの品々を眺めながら、関西法律学校設立にかけた創立者たちの想いに触れることができる。



関西法律学校創立者の一人である志方鏡による書や初代校長・小倉久の硯などゆかりの品々を展示

